



道有林アイドルキャラクター
「キキタ」

小学校森林教室

森林の声

☆ むかわ町立宮戸小学校

- 日時: 5月6日(金) 13:30~15:30
- 対象: 5、6年生 11名
- ・ 社会科の歴史の勉強の一環として、火おこし体験を行いました。当日は、風が強くなかなか火がつかず苦労していましたが、あきらめないで挑戦していました。



火おこし体験

また、火おこし作業を行なう前に、ドングリ(ミズナラ)の種子をポット(カミネッコン)に植える作業も行い、はやく芽が出ますようにと丁寧に植えていました。

今後は、苗木の成長を観察していくこととなりました。



苗木づくり

☆ 苫小牧市立西小学校

- 日時: 5月24日(火) 9:00~10:00
15:30~16:00
- ・ 苫小牧市立西小学校の6年生7名と5年生2名が森林室を訪れ森林や樹木についての学習をしました。

苫小牧の代表的な樹木である「ハスカップ」や木を守る仕事についての質問があり、職員の話に真剣に取り組んでいました。



6年生の学習の様子

☆ トーヤこどもの日2011(洞爺湖町) イベント情報

- 日時: 5月5日(火) 10:30~14:00
- 場所: 北海道立洞爺少年自然の家
- ・ ネイパル洞爺(北海道立洞爺少年自然の家)において『トーヤこどもの日2011』が5月5日のこどもの日に開催されました。

この催しは、様々な遊びや体験活動を通じて地域間の交流を広げることを目的に、多くのプログラムが行われました。

森林室では、木の枝を使ったエンピツづくりや木のネンドを使ったペンダントづくりなど木とふれあう催し物を提供しました。

当日は、多くの子どもたちや父母が来場し、楽しい一日を過ごしました。



イベントの様子



「木になる夏休み2011」

平成23年7月31日(日)開催決定!!

- 北海道胆振森林室では、昨年に引き続き「木になる夏休み2011」を開催します。

木の香りや手触りを子どもたちに教えてあげるよい機会です。夏休みの思い出づくりや宿題にぜひ参加してみませんか?

- そのほか、数々の催し物も用意しております。ぜひ、お越しください。

※ お問い合わせ 北海道胆振総合振興局森林室 管理課
電話 0144-72-5121まで

参加無料



春の植樹祭(4月、5月)

☆ お魚を殖やす植樹運動

- ・日時：5月8日(日)
- ・場所：むかわ町旭岡
- ・むかわ町旭岡地区の町有林において、「お魚を殖やす植樹運動」(むかわ森・川・海を守り隊主催)が盛大に行われました。

当日は、雨の予報でしたが、天気も持ち直し、子どもたちを含めた約90人が、ミズナラなどの苗木5440本を丁寧に植樹しました。



☆ サミット記念の森植樹のつどい

- ・日時：5月15日(日)
- ・場所：洞爺湖町「サミット記念の森」
- ・洞爺湖町において、「サミット記念の森植樹のつどい」が開催されました。この植樹祭は、2008年に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機に開催され、今年で最後となります。今年は、札幌などから約170名が参加し、クリーンラーチなど800本の苗木を植樹しました。



☆ マザーズ・フォレスト町民植樹祭

- ・日時：5月14日(土)
- ・場所：むかわ町穂別仁和地区
- ・むかわ町穂別地区では、92年に「マザーズ・フォレスト賞」を設立し、豊かな森林資源を守り育てるとともに、新しい時代へ向けて活躍する芸術家、文化人等との交流をしております。
- ・今年は、映画監督の崔 洋一さんが来町され、町民約180名とともにアカエゾマツの苗木を800本植樹しました。



ちょっと気になる木のお話し ハルニレ

エルム、という名の洋裁店や喫茶店がよくある。エルムはニレ(楡)。万葉集にも「もむにれ」として登場する。北海道の平原には、この巨木が多い。枝をいっぱいに広げる姿は、構えが大きく、堂々としている。東西の神話にしばしば現れるのも、人類の祖先がその素朴なたくましさに惹かれたためだろう。

アイヌ語でハルニレをチキサニ(我ら・こする・木)という。神は落雷で人間界に火を贈ってくれた。マッチが普及するまで、アイヌはこの木をこすって火を得た。したがってハルニレは神様の位では最高の「火の神」として敬われた。

北欧の神話によると、天地を創造した首神オーディンが、北欧ニレの木に魂を与えエンブラと名づけた。これが人類最初の女性である。エンブラがそのエルムに変わったというが、北欧の神々は、美しいエルムに遠慮して、この木にはカミナリを落さない、という伝説を生んだ。

カミナリが落ちる、落ちないで、二つの神話は対立するが、どうも軍配はアイヌ側にあがるようだ。その道の専門家の話によると、落ちやすい木はポプラ、カシ、ナラ、ヤナギ、ハンノキ、ニセアカシアなど。そのなかにニレもはいつている。ついでにいうと、落ちにくいのは、カエデ、ブナ、モミジ。ドイツの子どもたちは「カミナリがあばれたらブナの木の下にかくれる」と教えらる。日本で「クワばら、クワばら」というのは、元来カミナリよけのまじないだが、クワもカミナリの落ちにくい木の仲間にはいるそうだ。

日本では北のニレをハルニレ、南のものをアキニレといい、種類が違う。春、花が咲くのがハルニレだ。ニレはとくに、広々とした芝生などにひとり立つ木が立派だ。欧州ニレ、北米ニレ、中国ニレと、各国それぞれのニレがあるが、世界の公園、広場、街路樹、大学のキャンパスなどは、それぞれ自分の国のニレを中心に形成されている。欧米のキャンパスでは、ニレと芝生の組合せがきわめて美しい。(北方樹木園から引用)



北海道環境宣言 知事メッセージ

一本の木が豊かな森になるように、
一人の行動が北海道の未来を育みます

～道民一人30本植樹運動を実践します～



